

素案に対する意見募集結果一覧

序論部分

後期基本計画の項目	意見の内容
序論	
第1章 計画の概要	
第1節 後期基本計画策定の趣旨	
第2節 計画の構成と期間	<p>今回は基本計画の策定であるため、「計画の構成」として基本構想・基本計画・実施計画の3層構造に触れるのではなく、「計画の体系」として3層構造を説明し、そのなかで今回は「基本計画」を策定するという流れで説明したほうが分かりやすいのではないかと。</p>
第3節 計画の対象事業	<p>「対象事業」は、実施計画の策定段階で検討すべきものであるため、基本計画においては、「対象施策」として整理し、その施策体系に基づき、今後実施計画において計画事業を選定すると説明したほうがよい。</p>
第4節 計画の評価・検証	<p>評価の枠組みを基本計画に導入する理由は、「船橋市の持続的な発展を確かなものとするためには、中長期の計画的な行政運営」を図るためとせず、基本計画の目標を明らかにしたうえで、市民や事業者、市がPDCAサイクルに基づく進行管理を明確にするために設定するということを、もう少し分かりやすく説明したほうがよい。</p> <p>指標値について、現状値の把握は既存のデータで把握し得る指標を活用するのか、市民アンケートなどを実施し、市政に対する満足度調査などを実施するのか、この章で明らかにしておいたほうがよい。</p> <p>また、目標値の設定は、本来、その設定の仕方によって、将来的に市が投入する事業量・事業費を約束するもの（債務負担）という捉え方ができるため、現状値に対して、なぜこの目標値とするのかという説明が必要である。</p>
第5節 計画の修正	
第2章 計画策定にあたって	<p>章の表題を「計画の前提」などとしたほうが、適切ではないかと。</p>
第1節 社会・経済の動向と船橋市の課題	<p>「2 環境問題の重要性の高まり」について</p> <p>本市の地域レベルの環境をみたときに、近年、「都市化の進行に伴う大気汚染・水質汚濁・土壌汚染などの公害の発生」がみられるのか疑問です。時代認識が古いように感じられるので、前提条件としてしっかりと記述していただきたい。</p> <p>本来、市民活動とは、目的・目標を共有する市民が自主的な判断のもとで参加することを前提とするもののため、市の取組みの方向性として、「環境保護活動への市民参加機会の拡大」と記述することは不適切であり、表現を修正していただきたい。</p>

	<p>「3 地域の発展を支える都市基盤づくりの必要性」について 広域的な交流の拠点となる都市を目指すための取組みとして、「本市の特長である海を活かした魅力ある都市軸の形成」が例示されているが、「海を活かした」という表現では、市民からみると、親水性の向上や、船橋駅周辺部とのアクセス性の強化をイメージさせるため、実現可能性の観点から、「海」を活かしたまちづくりを強調するのではなく、臨海部の商業集積を活かした賑わいのあるまちづくりに力点を置いた取組みとして表現すべきである。</p>
	<p>「4 地域経済の持続的な発展に向けた取組みへの要請」について 文章表現について、「少子・高齢化による労働力の低下」→「～労働人口の減少」に修正すべき。また、「商工業だけではなく決して小さくない産業規模の農漁業」→「商工業のみならず農漁業も盛んであるなど」に修正すべき。</p>
	<p>「6 地方自治体を取り巻く環境変化に対応した「新しい公共」への期待」について 「地方自治体の財政を取り巻く環境が一層厳しくなる～」ことの背景として、「ライフスタイルの変化によるニーズの多様化」を挙げていますが、その後段の「行政サービスへのニーズは質・両ともに高まっている」ことが、自治体財政を取り巻く説明として、より適切であるため、文章構成の再考をお願いします。 「地域主権の一層の進展により」以降の文章のつながり、文脈が通じにくいいため、再考してください。</p>
第2節 計画の基本的条件	<p>「4. コミュニティ区域」について コミュニティの単位の根拠が分かりづらいので、表現の工夫が必要です。中学校区単位でしょうか。</p>
	<p>「5. 土地利用」について 市の基本的な考え方、方向性を明記してください。 土地利用の定義と現況については書かれています（都市計画部門の所管課に行けば、分かる内容です）が、今後9年間、市としてどのような土地利用を図っていくのか、基本的な考え方がまったく見えてきません。</p>
第3節 計画における市民と行政の役割	<p>まちづくりの主体となる、民間事業者や民間団体の役割も明記すべきです。</p>

基本計画部分・説明からリーディングプラン部分

後期基本計画の項目	意見の内容
基本計画	
1. 基本計画の目的	
2. 基本計画の構成	
3. 基本計画の期間	
リーディングプラン	<p>位置付けが不明確です。リーディングプランに位置付けのあるものは、市の重要施策として、今後9年間の計画期間中に予算措置などにおいて優先付けが高くなるということでしょうか。「計画全体を効率的、効果的に先導し」とありますが、施策体系の縦軸の施策のうち別途、共通テーマでまとめられるものを横串しているということでしょうか。図解を用いるなど、分かりやすい表記に工夫が必要です。単に関連施策を羅列するのではなく、施策の重点化を図るなど「リーディング」という冠に見合った内容を期待します。</p>
①安心して暮らせるまち	<p>「期待される効果」は、例えば、市民アンケートにおける満足度調査や、各事業所管課が把握する指標値と連動しているのでしょうか。また、なぜこれらの効果項目が選択されているかの因果関係が不明であるため、船橋市の現状について、代表的な指標を示して問題点や課題を明示したうえで、目指すべきすがたとしての「期待される効果」を提示してください。</p>
②未来へつなぐ恵み豊かな環境のまち	
③笑顔があふれる子育て・子育のまち	<p>「期待される効果」として、「子どもの健全育成」と「子どもの生きる力の醸成」が分けて表記されていますが、後者は前者に含まれるのではないのでしょうか。</p> <p>また、「女性の社会進出」という表現はやや古いため、「女性の就業率の向上」などに改めるべきです。</p>
④人が集まる元気なまち	<p>「職・住・遊」の目的地として、積極的に選ばれる魅力づくりを行うとあるが、一から魅力を創出するだけではないため、既存資源の有効活用、拠点間の連携などの視点を書きこんだほうがよい。</p> <p>また、リーディングプランに位置付けるからには、職・住・遊について、市のエリアごとの性格付けや役割分担の現況、それぞれのターゲットを明記して、戦略的な取組みとなるような書き込みとすべきです。</p> <p>都市イメージの向上は市の認知度や好感度を上げるための重要な取組みであると思いますが、「都市ブランド」（産品ブランドではないということでしょうか）を確立するためには、広報関連経費をある程度投入し、かつ地域や事業者を巻き込んだオール船橋市としての取組みを、長期継続的に実施していく必要であるため、表現には注意を要すると考える。このため、少なくとも今後9年間は、主に</p>

		<p>住まう場、訪問する場として選ばれるための、都市イメージの向上に絞って取り組むべきではないでしょうか。</p>
	<p>⑤市民に愛され、育まれるまち</p>	<p>現状や背景の記述において、「高齢化の進行とともに元気な高齢者も増加していますが」とありますが、高齢化が進行（年少・生産年齢人口の減少と連動した高齢化率の上昇）しているから絶対量として高齢者の数が増加しているわけではないため、表現を改めるべき。「元気な高齢者」とは、主に団塊世代など74歳未満の高齢者を指していると思われるが、74歳未満の高齢者について、75歳以上の高齢者と比べて要支援・要介護の割合が低いとは言えますが、高齢化の進行が元気な高齢者の増加と因果関係はないのではないかと。</p>

分野別計画部分

後期基本計画の項目	意見の内容
分野別計画全般	<p>各指標における目標値について、当該目標値を目指す根拠がいま一つ分かりません。現状値について、例えば、政策レベルでの市民満足度との関連性を明示し、なぜ指標の値を上昇させるべきであり（そのために、行政サービスを投入する、つまり税金の使い途の配分をどこに重点を置くかということ）、これらの指標の値の上昇が市民生活にとって、どうプラスとなるか分かりやすく示したほうがよい。</p> <p>指標によっては、現状値の現状維持を行うために、相当の財政支出を伴う場合もあるものと考えられる。</p>
第1章 「いたわりあい」と「支えあい」の心に満ちたまち	<p>このような素晴らしい施策を掲げているにもかかわらず、現在船橋市では公立保育園を民営化しようとしています。民営化は今基本計画と根本的に矛盾すると思います。民営化を推進される方たちの意見は公立保育園はお金がかかるものであり、また未就学時の20%しか通っていない公立保育園にお金をかけることは、子どもたちへの公平さを欠く、といったものです。よって、公立保育園を民営化することにより浮く資金を他の子供たち、(主に障害児への対応)にあてる、という方針のようです。</p> <p>そもそも公立保育園の立つ位置、その必要性とは何でしょうか？</p> <p>保育にはお金がかかります。そのほとんどは人件費と言われてます。民間の企業とは利益を追求するもの、つまり無駄を省き仕事を効率化することです。子育てとは相いれませんが、公立保育園がなくなり、民間園だけになった場合、より効率化し利益を得る保育園が生き残ります。その中で今ある良心的な経営をしている民間園も淘汰されて行くことが予想されます。公立保育園の保育はその質の基準を示していると考えられ、この基準をなくすことにより、実際の保育の質は低下していくことが懸念されます。新基本計画において保育の質の向上を目標として挙げているにもかかわらず、現在のこの動きはこの基本方針に矛盾するものと考えます。</p> <p>公立保育園は、障害のある子供、発達支援児、アレルギーのある子供など、民営の幼稚園からは入園を拒否された子供たちを受け入れています。問題のある子供として幼稚園退園を余儀なくされた子供たちもいます。公立保育園を民営化した場合、このような子どもたちは行くところがなくなってしまう。またこの事実は民間の園では、このような子どもたちへ対応することが不可能であることをはっきりと示しています。</p> <p>新基本計画に歌われている、地域の中での子育て支援、虐待されている子どもたちへの対応なども、公立保育園を中心としたネットワークを構築することにより具体化すると思われ、民営化どころか、さらに大事な役割を公立保育園が担うことが期待されると考えます。このような状況下で公立保育園を民営化することは時代の求めるものに逆</p>

行するものと考えます。

基本的に保育、介護、障害者対策などは、お金も手間もかかるものであり、もし、民間の企業がこの分野において利益を得ようとするならば、その結果大きな弊害が出ます。沿って他の公的機関が民営化されていこうとも、最後まで公で責任を持って行う分野であると考えます。他の地方自治体と比べれば、財政状況がひっ迫しているわけではない船橋市が、今このような新基本計画を提案しながら同時に公立保育園の峰以下を打ち出している理由が理解できません。

子供は社会で育てていくもの、健全な子どもの成長は将来的に国を支える大きな力になります。子供にお金をかけずして、国の将来は立ち行きません。

今船橋市においてより大きな問題は、公立保育園にかかっているお金を減らすことではなく、以下に待機児童を減らすか、ということではありませんか？

現在の保育情勢は、前期計画のときよりも、社会経済の悪化に伴い、共働きの夫婦が増え、待機児童も予想以上に増加の一途をたどっています。

その中で、公的保育を受けられなくなる子供が増えるということは、家庭保育をせざるをえなくなる人が増え、そのせいで虐待される児童の増加を招く懸念すらあります。

いろいろな保育援助の仕方があると思いますが、再度、保育や幼児教育の受容がどのくらいあるのかを、子供のいる家庭にアンケートなどで意見を聞き、どんな需要があるのかを確認してみてもよいのではと思います。

たとえば、同じ時間預かってもらえるならば、幼稚園か保育園か選べと言われたら、幼稚園に入りたいと思っているかどうか、本当は保育園に預けたいがしょうがなく幼稚園に入れているか、など。しかし今現在は仕事をしているため、幼稚園に入れることはできず、やむなく保育園に入れている、そんな方もいらっしゃるのではないかと思います。そういう需要が多いのであれば、幼稚園への補助を増加し、時間外の預かりをしてもらい、保育園の入園している人を、幼稚園側へ移動するという事も、待機児童の対策になると思いますし、幼稚園が保育園と同じような時間で預かることになることで、幼稚園の先生方も、幼児教育と保育の両方の考え方をすり合わせていくことを考えられるのではないかと思います。現代のニーズにかなうものになるのではと考えます。

しかし、それだけでは、1000人を超える待機児童の解消にはならないと思われるので、公立保育園は現状のまま存続、もしくは、保育園を増やしていき、早急な待機児童の解消をはかる計画を立ててください。

保育園の民営化は、もっといろいろな対策をしてからでも、遅くな

いのではないのでしょうか。保育園が1つ民営化することで、船橋市は、子育て世代にとって、安心して子供を預けられるところではなくなってしまうのではないのでしょうか。公の力を最大限に発揮するときです。安心して預けられるというのは、しっかりとサポートしてくれる公的機関があるということだと思います。保育園は減らすべきではない時期だと思います。

民営化するよりも先に、私立と公立の保育園の先生方、その後は幼稚園での幼児教育の仕方、保育園での保育の仕方の良いところなど、お互いがどんなことをしていて、努力をされ、うまくいって、悩んでいてということ共有する場があってもよいのではないかと思います。

そうしていくことで、私立公立保育園と幼稚園の垣根がなくなっていくことができ、はじめて、子供の育てることというものを共有できるのではないのでしょうか。よろしくお願いします。

私は今の会社で初めて育児休暇を取得し復帰した第一号です。私の周りには同じようなお母さんたちがたくさんいて、同じような悩みを抱えています。仕事と家庭の両立に悩み、子育てに悩み、時間が足りなくて、お金がたりなくて、でも仕事では男性と同じ責任を任される世代。いつも何か追い立てられていて、何かにつけて私がいけないのか、と自分を責めることも多いです。そういう時、一番の心のよりどころは保育園のママ友達や保育園の先生方です。ママたちに励まされ、先生方に仕事の悩みを聞いてもらい、ということの繰り返しです。そしてそこで築いてきたコミュニティは私にとって宝だし、これからも私の核になることは確かです。でも、その保育園のコミュニティが民営化という波で壊されようとしています。

保育園にも幼稚園にも通わない子供たちの支援のための財源確保のため、人材確保のため、また、待機児童対策のため、保育園を民営化しその原資としてあてる。市はそのようなお考えのようです。本気でそれに取り組もうとするならば、公立保育園の民営化には反対です。民営化をしてもわずかな財源や人材しか確保できず、待機児童の問題や地域の子育て支援に即座に対応することは非常に難しいと思います。待機児童は働く親にとって深刻な問題です。まずは、今ここある大切な資源を強化して、上手に活用していくことが効率的なやり方ではないのでしょうか？また、市に現在ある他の機関、児童相談室や子育て支援センター、保健センターなどとの連携をふかめることで、私たち保育園利用者だけでなく、普段は保育園に通わない方々もコミュニティに参加できる体制を作り上げることが可能だと思います。

保育の質の向上についても今回の施策に挙げられていますが、保育のあり方検討委員会では、そのことはほとんど議論されていません。認可、認可外、公立、私立などの垣根を越えて、全体の質の向上をもって船橋市の保育の質をあげていただきたいと、ぜひとも思います。それが船橋市を担う子どもたちに必ず返っていきます。保育のあり方

検討委員会で、会の会長から保育園の民営化はそこに通う子供たちに犠牲をしいると、発言がありました。民営化そのものの市としての責任について、また民営化後の市の責任については議論が尽くされていません。すべての子供たちにとってよりよい環境になることを願うのであれば、公立保育園の民営化ではなく、さまざまなコミュニティ、組織、機関の連携強化と交流をぜひとも検討していただきたいと思えます。

子供の成長は待ってくれないし、高齢化社会も待ってくれない。その狭間で行政の担当の皆様もご苦勞をされているのは重々わかっているつもりです。それでも、どうか知恵をだして船橋市がよりよくなるようにしていただきたいものです。

保育の拡充や、子育て支援、地域コミュニティの充実などを考えている点については実際に実現されて、船橋市という大きなコミュニティがさらに充実するのではないかと思います。

しかし、保育の拡充や、子育て支援という点においては先月終了した保育のあり方検討委員会では、具体的な保育のあり方についてはなんら提案されず、子育て支援を行う場合には公的な補助金の拡充が必要といわれながらも、無認可保育園に対する補助金や私区立保育園の補助金についての具体的な内容もまったくありませんでした。

また船橋市には25園以上もの公立保育園があり、そこには保育のプロである保育士、看護師、栄養士がいるなかで、公立と言う公の福祉を扱える場所があるにも関わらず、地域コミュニティ、子育て支援としての活用を一切話されることなく終了しました。

文京区では、区と保護者が数年にわたって協議を重ね、公立保育園を公立で残し、幼稚園、私立保育園、小学校、中学校で連携をとっていき、子育て支援、地域コミュニティとしての活用。各園父母会の親のつながりも十分に活用した、前進的な子育て支援を行っています。

また保育料に関しては高額所得者の項目を増やし、保育料の歳入を増やすことで子育て支援の財源としています。

初めての子育てに悩む保護者に保育園士体験を進めることで、子供の成長を目に見えて教えて、子育ての楽しみを教えるイベントや、幼稚園、小学校、私立保育園、公立保育園共同のイベントを開き、地域コミュニティの活性化をしています。

また保育園でプレママ・プレパパのイベントを開き、出産後保護者が相談しやすいようにと考えて実行しています。

保育園なら、上の子供がいる保護者でも保育士の目があるので参加がとてもしやすいです。また、こういう機会を何度も行うことで、虐待の発見・核家族の育児ノイローゼの早期発見も行えるのではないのでしょうか。

虐待への対応、少子化による核家族への手を差し伸べること、それは子供だけではなく、今後の船橋市において「住みやすい町船橋」を作

り上げることになり、船橋市後期基本計画の示そうとしている地域の力、輪を大切に思うものだと思います。

福祉は市が監督し、今後も担っていくものであり、市の中での行政の管轄を整理することで、公による早い情報収集、伝達、子育て支援のイベントの実行に置いての保育士の活用、保護者同士のつながりに置いて、何もかもを一から始めるよりも、少ない費用で大きな効果をもたらせるものと考えます。なぜそれを船橋市は考えないのでしょうか？

今ある既存のものをいかに最大限に活用できるのかを考えるのが民間での改善の第一歩です。今あるものをなくして、一から作り上げるのでは多くの費用がかかるのはわかりきっています。

また、財政難、財政難というが先日、市の職員に「決算は黒字、財政は健全ですとホームページに書いてあるが、何をもって財政難なのですか？」と聞いたところ

「今はこの不況ですから」と返答がありました。それならば、では経済が安定し、バブルと呼ばれた時代にいったい何をしていたのかと思うばかりです。

不況の時に福祉の歳出が多くなるのは当たり前です。「不況」を自分達が良い施策を打ち出せない言い訳にしないでいただきたい。

保育のあり方検討委員会の出した提言のように、市として効果的な施策を提案も出来ず、とにかく市民に負担をかぶせようとするコスト削減を提案する前に、今ある市の財産を活用することで、今まで以上の効果を得られること、市のシステムを改良していくことをなぜ考えないのでしょうか。

職務怠慢を直す気は一切なく、市民に、子供に、今まで精一杯働いてきた高齢者に負担を押し付けるような計画は作らないでください。絵に描いた餅計画の公表にはいい加減うんざりです。

『1-1-2 次世代を担う子どもの育成』についてですが、子どもを産みやすく健やかに育つ環境を整える等、とても良い事であると思います。

しかし、現在ある公立保育園は長い時間、沢山の人の力により作られた船橋市の貴重な財産です。その財産を保育計画課は「あり方検討委員会の提言書」に基いて民間移管を進めようとしています。「あり方」の中では「保育の質」の議論がないままに民間移管としました。当初、民営化は園舎耐震建て替えありきのものでした。民が建て替えると国から補助金が出るというものです。公立保育園に子供を預ける保護者として子育てに関する不安感、負担感が今増えています。

子育てに限らず様々な事を議論する際には是非、保護者、当事者、市民の偏りのない現場の声を反映したものになって欲しいと思います。

「心のかよった社会福祉の推進」として、高齢者や「次世代をになう子ども」についてのことが書かれていますが、今回、船橋市の保育

のあり方検討委員会で提言されたことは、このことから、反すると思います。保育園などにも通えない在宅保育の子どもへの救済、そのための公立保育園の民営化、ということが述べられていますが、そのどこが「心のかよいあった社会福祉」になるのでしょうか。

発想が逆です。在宅保育児、中でも、ネグレクトも含めた虐待から子どもを救いたいのであれば、検診時などの特別な機会だけでは、救えません。それよりも、保育を必要とする者として、日常的にケアのできる、保育園などに通えるように、そういう施設こそ拡充していく必要があります。公立保育園を民営化するのではなく、待機児解消と合わせて、拡充していくことを望みます。

第2章 いつも身近に「安らぎ」が感じられるまち

「羽田空港発着航空機騒音公害対策」について

平成22年10月21日の羽田空港D滑走路供用開始以降、羽田空港からの離陸機の通過により、船橋市内いたるところで“ゴーゴーゴロゴロバリバリ”という大きな騒音が響きわたっております。

一部の地域においては、住宅地とは思えない不快きわまる騒音状態に陥っており、心安らかな暮らしができない状況になっています。

平成22年10月21日以前から、1日130便の羽田発離陸機が、船橋市の海岸付近上空から、北あるいは西方面に高度2,000～3,000メートルという必ず騒音公害発生が予想される低空で飛行していましたが、10月21日以降は、平均190便と約60便増便されています。

これは、羽田空港からの離陸便全体の40%強が、船橋市上空に集中しているということでもあります。

また、新たに、着陸便も、気象状況次第で相当数の便が市内上空を通過することになっており、騒音増大が懸念されています。

さらに、飛行経路・方向の変更も加わり、市内上空での羽田発離陸機の滞空時間も長くなり、エンジン噴射の向きに関係もあり騒音が大幅に増えて、市内上空で1日のうち相当に長い時間にわたり騒音が鳴り響いている状態となっています。

本来、人の頭の上を通させてもらうのであれば、静かに通るもの。通りすがりに、人の頭を足蹴りにするような不快な騒音発生は、全く非礼そのもので、人の道はずれており許されるものではありません。

騒音公害を被っている住民からすれば、突然ふってわいた災難で困惑のかぎりであり、いろいろ考えると人災と思えるものです。

船橋市としては、住民の目線に立って、住民が羽田発離陸機の騒音公害を被らなくてすむ対策を、早急に具体的に検討実施すべきと思われます。

また、場合によっては“羽田空港発着航空機騒音公害ゼロ都市”宣言をし、羽田空港の離陸機全体の40%強と、集中して船橋市上空を通過することの妥当性を市民全体の問題として取り組み、検討協議すべきではと思われます。

		<p>とりあえず、「基本計画の第2章政策2 環境負荷の少ない資源循環社会の構築 施策2) 地球環境への負荷の低減」の(主要事業)に「羽田空港発着航空機騒音公害対策」を是非追加し、市民等からの公害苦情に対する適正処理に努めていただきたい。</p> <p>葛飾放流きょ(本郷町689-2)を中心とする近隣の浸水被害に対するインフラ改善のお願い</p> <p>こちらに越して8年になりますが、近年の集中豪雨、及び、温暖化に伴う異常なまでの雨量を伴った台風に対して、今までのような既存の下水道整備では対応できかねていない現状が発生しています。</p> <p>平成19年8月に船橋市が作成した防災マップ(洪水ハザードマップ)にも、平成12年、平成16年に道路冠水、床上浸水の被害状況が記されておりましたが、実際には、もっと頻繁に道路冠水が発生していたものと思われます。</p> <p>特にここ数年では毎年2~3回の頻度で、道路冠水が発生しており、その被害状況を把握していただきたくマップと写真も提出させていただきました。</p> <p>今回の後期基本計画では「生き生きとしたふれあいの都市・ふなばし」を目指していらっしゃるようですが、私にとりましては、まずは居住エリアの安心・安全が最優先です。</p> <p>近隣に住む住民はみんないつ来るかもしれない集中豪雨に対して不安を感じて生活しています。また、付近には京葉道の原木インターや、産業道路など交通の要所が集中しており、この浸水被害の問題は、近隣住民はもとより、ここを通る多くの走行車をも巻き込んでいるのが実態です。浸水被害がもっとひどくなれば、経済損失も相当なものになるとと思われます。</p>
第3章 文化を育み「豊かな心」と「生きがい」が実感できるまち		
第4章 活気あふれる「生き生き」とした暮らしのあるまち		
第5章 都市の活力を生み発展し続けるまち		<p>他の章と比べて最優先で達成しなければならない重要課題だ。土地買収より道路標識、信号整備あるいは車のスピード出し過ぎを抑えるためのスピード測定装置の取り付けなどに早急に取り掛かるべきだ。</p> <p>また、道が狭いため渋滞が激しい。とにかく道路整備を一刻も早くしてください。</p> <p>船橋市民が、船橋市を自慢できる船橋市にするため、惚れ惚れする船橋市にするため、住み続けたいと思う船橋市にするため、「街並みから電信柱を一掃する」大方針を立ててください。そして、「電力線・通信線の地下埋設に関する条例」を船橋市が制定してください。</p> <p>(1) 地下埋設推進の大方針のもと、地下埋設の10年計画、30年</p>

		<p>計画を策定する。</p> <p>(2) 一定規模以上の土地 [例えば、1000平方メートル以上]・住宅 [例えば、15戸以上] 建設のための開発事業に関しては、電力線・通信線を地下埋設とすることを義務付ける。</p> <p>(3) 上下水道工事には、必ず この条例に対する配慮をする。</p> <p>理由</p> <p>◎ 20世紀初頭のニューヨークの街は、多くの電力会社が販売競争を行い、電柱がならび、電線を張り巡らせたために、電線で青空が見えなくなっていた、と聞きました。</p> <p>◎ 現代の欧米先進国の街路には、電信柱・電線類は極めて少ないようです。</p> <p>◎ 電信柱が街路に立ち並び、電力線から通信線、ケーブルTV線や光ケーブルなどが張られている光景は、実に 後進国的で、アジア諸国の悪い見本になっている、とさえ思います。</p> <p>◎ 電信柱と電線・通信線は、街の美観を著しく損なっており、狭い商業地・住宅地の魅力を台なしにし、往来通行の邪魔物になっています。街並みの写真も楽しくありません。</p> <p>◎ 船橋市では、地下埋設への絶えざる努力をされていることは存じておりますが、さらに美的感性・知性と資金を効率的に結集し、一層の船橋市の魅力倍増・美観実現への決意をご表明いただきますよう、お願い申し上げます。</p>
	第6章 新時代をひらく「創意」と「意欲」にあふれるまち	
	第7章 計画の推進にあたって	

その他全般的な意見

意見の内容
<p>1. 船橋市に「<u>華</u>（^{はな}きらびやかで美しいもの）」をつくりましょう。</p> <p>①市民の心が<u>華やぐ</u>もの。市民が<u>誇り</u>に思えるもの。船橋駅南口が<u>すっきり</u>して、京成の高架も実現して、随分と中核都市らしくなりました。</p> <p>②船橋市には、海があり、港があり、丘があり、優れた鉄道網もあります。</p> <p>③横浜市に似ています。横浜市にある「華」、センスの良さ、カッコ良さ、ハイカラさを、作ってゆきましょう。</p> <p>④船橋には、横浜に無い「延喜式時代」からの歴史があります。</p>
<p>2. 船橋市に「<u>船橋スカイ・ツリー</u>」を造りましょう。</p> <p>①船橋市民全員、船橋を訪れる人全員が、船橋全市と、隣接市町村や隣接都県、その向こうの海外諸国まで俯瞰でき、鳥瞰図を描ける展望台です。</p> <p>②空間的な眺望だけでなく、船橋の過去、現在、子孫たちの未来までもが展望できます。</p> <p>③駅から近い場所、そこには、美術館、大きなコンサートホールも造りましょう。駐車場も十分に確保しましょう。</p> <p>④海老川沿いの調整池予定地（県所有地？）あたりは如何でしょう。</p> <p>調整池 水面の上にコンクリートの人工地面をつくり、「<u>船橋スカイ・ツリー</u>」も「<u>美術館</u>」も「<u>コンサートホール</u>」も建設し、駐車場も確保できます。</p> <p>人工地面の下は、調整池の機能を十分に果たすことができるとは思いますが、如何でしょうか。</p>
<p>全体的に総花的であり、具体性に乏しい。基本計画の内容は否定しないが、平成 32 年まででなららした計画のような気がする。そのためいたるところで「検討」「推進」「必要である」と言った表現にとどまり具体性に欠ける。</p> <p>市の統合検討などもあり、かつ大地震、ゲリラ豪雨、予期せぬ事象もあることを前提としなければならない。</p> <p>世界的な大不況であり動きにくいことは事実だが、敢えてこれをチャンスと捉え、新たな発想で取り組むことが必要である。</p> <p>具体的には 2 年程度で優先・懸案事項（雇用、保育、耐震化、環境対策等々）を一気に処理する予算策定が考えられる。これにより船橋市のアピールにつながり、選ばれる都市へと大変貌するきっかけとなる。そして国内・国際的にも注目される都市となる。</p> <p>本計画はそのような残新のアイデアに乏しい計画である。私ならとりあえず 2 年間は必要額の集中予算策定を実施し、雇用も生み出す革新的な案を出せる。不足財源は市債を機関投資家または投信を受け皿にすれば可能と思慮する。そのためには格付けの取得が不可欠と思慮する。要は従来予算にとらわれずに予算策定をすることである。</p> <p>従来発想ではできないことを船橋市が率先して計画・実行し、日本・世界にアピールするチャンスである。計画全般の見直し、具体化が必要と考える。</p> <p>伝統とグローバル化を融合させた新しい船橋に変貌させるときである。</p> <p>※耐震工事は 2 年で完結。下水も 2 年で完結。水害対策等も 2 年で完結。都市計画の見直しと大規模再開発、都市計画道路等を優先的に計画・実行など</p>
<p>基本構想を拝見しましたが、暮らしがどのように改善されるのかが想像できませんでした。</p>

私が考える身近な問題ですが、どうなるのでしょうか？

- ・慢性的な交通渋滞（ららぽーと周辺）
- ・排気ガス（ららぽーと周辺）
- ・トラックの騒音（冷凍団地）
- ・少ない緑（全体的に）
- ・街全体の景観の悪さ（全体的に古い感じ）
- ・海の汚さ（京葉港）
- ・湾岸道路のゴミのポイ捨て
- ・子供の医療費助成の悪さ（以前川崎市に住んでいましたが、子供の医療費は無料でした）
- ・オートレースの騒音（時代遅れ）
- ・船橋競馬場の匂い（商業施設の方が税収がよいのでは？）
（公営ギャンブルは儲かっているのですか？）

再開発を行い、エコで緑に満ちた住みやすい街に。

湾岸地域の景観を良くして幕張や浦安市のように整った街づくりを行っていただきたい。

※船橋フィッシャーマンズワーフプロジェクトなんかいい案だと思ったのですが・・・。